Google を使って文献検索

東京外国語大学 附属図書館

* ガイダンスの解説 *

ここでは、Googleを使った文献の調査方法を、段階ごとにツールを確認しながら学習します。



- ステップ3: Google Scholar と Google Books を使い分ける。
 - ≻ Google Scholar
 - ➢ Google Books

ステップ1:はじめに

<Web 上にはどんな学術文献が存在するか?>

- = 以下の 1~3 は「お金をとること」を前提としているサービスで、4 は「無料で提供」が前提と なります。
- 検索有料 閲覧有料 オンラインジャーナルや論文検索データベースなど、有料サービスで提供 例:<u>http://www.tufs.ac.jp/common/library/guide/list/online.html</u> (東外大の場合)
- 2. 検索無料 閲覧有料

上記のうち、有料サービスのため本文閲覧はできないが、検索は無料で提供 例:<u>http://www.ingentaconnect.com/</u>

3. 検索無料 閲覧無料

上記のうち、本文まで無料で公開しているもの(このようなケースも時々あります)

4. 検索無料 閲覧無料

フリーアクセスを前提として提供される Web ページやデータベース

pg. 1 / 4

※本文は「pdf ファイル」での公開が主流です。html ファイルの場合もあります
※論文だけでなく、図書の全頁や一部分が公開されていることもあります。
例:機関リポジトリ(大学等の研究機関が機関発行の紀要や学位論文、所属教員等の発表論文

- を登録・公開するシステム)で検索・閲覧とも無料公開 →本学:東京外国語大学学術成果コレクション <u>http://repository.tufs.ac.jp/doc/</u> 例:学会等が、学会誌掲載分を無料で公開しているもの
 - 南アジア研究 http://jasas.info/jjasas.html
- 例:研究者等が個人の著作を無料で公開しているもの、など。

<Google でどんな文献を検索できるか>

=Web 上には下図のように多くの情報がありますが、Google が検索結果として表示できるのは、 ①Google からのクロールを拒否しなかった場合 ②サービス側がデータ提供した場合です。 Google は様々な学術文献を一括して検索できますが、Google ですべてが検索できるわけではない ことも覚えておきましょう。



<mark>ステップ2:Google を使おう</mark>

<Google でどうやって検索するか?>

http://www.google.co.jp/

=通常の Google 検索画面で、検索キーワードの入れ方を工夫する。

☆フレーズ検索:入力した文字順のまま検索する方法

「""(Shift+2)」で論文タイトルを囲んで「"論文タイトル"」と入力します。

Google G → "論文タイトル"	
Google	検索になります。指定した 単語がどこかに含まれれ ばとットしますので、大量の検索結果が表示されて
"論文タイトル " Google	

<例題1>

⇒通常の画面に、例「["]人には何人の兄弟がいるか : ジャワ神秘的存在論とその展開["]」と入力して

フレーズ検索してみましょう。



<例題2>

⇒通常の画面に、図書タイトル「"山東方言基礎語彙集"」と入力して検索すると、東外大のリポジト リで図書の全ページを閲覧できます。

<オプションを活用>

=検索オプションでさまざまな条件を指定できます。			
検索するキーワード			
すべてのキーワードを含む:		風中マークをクリック!	
語順も含め完全一致:		言語ツール	
いずれかのキーワードを含む:		ウェブ履歴	
含めないキーワード:			
数値の範囲:	~ []	①「語順も含め完全一致」に入力するとフレーズ検	
		索になります。	
検索結果の絞り込み	I		
言語	すべての言語	② 特定の機関や国を指定して検索する場合に使	
地域:	すべての地域	 NLONK(R) 首と目上して(大米) Smalle(K) 田します、「tufs ac in (大学) 1や[ac in (日本)) 	
最終更新:	指定なし	の学術機関)といった入力が可能です。	
サイトまたはドメイン:	2		
検索対象の範囲:	ページ全体		
セーフサーチ:	最も関連性の高い快楽結果を表示	③ 論又はpdfの場合が多いので、pdfを指定すると	
ファイル形式	すべての形式 3	ヒット件数を押さえられます。たたし、論文か html 等、 pdf 以外のファイル形式の場合はヒットしません。	
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
☆ 代表的な日本のドメイン			
サイトの提供元を判断するときは、ドメイン(サイトの運営機関を表現)を参考にして下さい。			

例:<u>http://www.tufs<mark>.ac.jp/</mark>東外大のHP</u>

※【.jp】の部分は、「Japan」のように、国名を表現しています。

【.go.jp】= 政府機関 【.ac.jp】= 大学・研究機関 【.ed.jp】= 大学以外の教育機関

<Google から電子ジャーナルヘ>

=Google で読めなくても、OAPC を検索すると、電子ジャーナルでヒットすることも(学内アクセス)。 例題:「フレーズを含む」フィールドに、「論文名: Atoms for Peace and Nuclear Hegemony」を入 力して検索すると・・・



ステップ3:Google Scholar と Google Books を使い分ける

<Google Scholar>

http://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja

=学術資料情報のみを対象にして検索したもの。Scholar に登録されないものもあるので、これだ けで Google 内の学術文献検索は完全!とは言い切れません。また、論文の信頼性には注意が必 要です。サイトの提供元を目安にしてください。



「検索オプション」で、著者や掲載年を絞り込むこ とができます。

論文そのものや、当該論文を引用している他の 論文情報を入手できます。

<Google Books>

http://books.google.com/

=図書の書名等の書誌情報、また、本文も対象に検索し、発行年や権利に応じて一部、または全頁 を閲覧できます。目次を確認できることがありますので、ILLの前にご活用ください。

